

# 認可の自由な小学校を 北海道につくろう！

— ゆきのさと自由が丘学園小学校  
・中学校（仮称） —

自由と豊かな自然の中で  
子どもたちの学びと成長を促す学校



認定 NPO 法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会  
北海道に「自由な小学校」をつくる会

## 北の大地に自由と協同の学校を！

以下は、1998年「北海道自由が丘学園中学校」開設に向けたパンフレットにある、本NPO法人創立者の一人であった故・鈴木秀一（北大名誉教授）氏のことばです。

「子どもたちが力を発揮できないでいます。イライラを喜びに、ムカツキを思いやりに、カッターを熱中に変えられるような、子どもと大人の学びの場を創っていくことが求められています。そこでは納得するまで追求する自由が大切にされ、一人一人の違いを持ち味として交流し、わかる喜び、ともに発見し、創る楽しさを体験できるように手だてが整えられなければなりません。そこは、『子どもの権利条約』で述べられているように、『こどもにかかわるすべての活動は、子どもにとって最善であるように考慮される』場となるでしょう。

しかし、そのような充実した空間を予め用意し、子どもたちをむかえようと考えているのではありません。子どもたちと大人である私たちが、知恵を出し合い、汗を流して創り上げるとき、子どもの成長も私たちの成長とともにあらわれてくるのだと思います。

この創り上げる運動の輪に、ぜひ参加してください。」

それから20年になろうとする今でもこの呼びかけは古びていません。

紛争問題や環境問題など地球規模の様々な課題、少子高齢化や格差などの様々な日本の課題が山積する現代に、これからの社会を担う世代・若者が、既存の枠組みで「今だけ、金だけ、自分だけ」を考える人になるのではなく、とらわれない発想で広い視野から物事を見て、様々な立場の人に共感し、共生社会を築いていけるような人に育っていくことが大切なのではないのでしょうか。

それならば、生き方や生活を枠付けし、競争の中で互いに不信感を生んで自己肯定感をすり減らし、詰め込みで知識量ばかりを問うような教育を脱していかなければいけません。体験を豊かにして、協働で知的探求を行っていくことで、共感と信頼が生まれ自己肯定感が育つ、そんな教育が必要になるのではないのでしょうか。学校教育としては、認可の学校として、それを体得していくことのできる小学校段階から始めなければなりません。

### ◇◆北海道自由が丘学園月寒スクールについて◇◆

受験型学力/競争や画一管理主義に拠らない、“子ども達が主人公＝学び成長する主体者”の人間形成的教育を理念に、『市民立・協同』による学び舎・学校づくりを推進中。

#### ～運営の視点～

- ・異年齢、オープン型
- ・豊富な体験機会を用意
- ・ミーティング、参画重視

#### ～主要なカリキュラム～

- ・基本学科/授業と個別サポート
- ・総合型学習/表現科、人間科
- 地球に生きる科、やってみる科

#### ～特別企画、行事～

- ・農業実習/余市教育福祉村
- ・教育大実習/授業レク食育
- ・キャンプ、登山、博物館見学

## 自由な小学校って

子どもたちがのびのび学び成長できる場所、それが学校。

いつもわくわく、たのしい学校。子どもたちも大人たちものびのびする学校。

宿題もテストもない、学年の壁もない、「先生」とよばれる大人もいない学校。

感情面、知性面、人間関係の自由を大事にする学校。

知識偏重でドリル詰め込み式の学習と大人が子どもたちの生活を枠付けする教育をやめて、たのしいから自己肯定感と思いやりが育ち、のびのびしているから知性が育つ、そんな学校が自由な学校。

学びは大人からの要求ではなく、子どもたちの意思が第一。だから、多様なメニューと豊富な経験を大事にしてそこから学びが紡ぎだされていく。一人一人を尊重して、とことん話し合っていく生活そのものが大切な学びの場。

「子どもを笑う教師」ではなく「子どもとともに笑う教師」(A.S.ニール)がいて、笑いと喜びにあふれているのが自由な学校。

## どんな内容

(1992年開校、25周年を迎えた和歌山県「きのくに子どもの村学園」小中学校をモデルに)

### ■プロジェクト

自己決定の原則、体験学習の原則、個性化の原則が調和的に実行される形態。有名な教育学者デューイの提唱した「活動的な仕事」に当たります。学年の壁なく縦割り、自分で一年間所属するテーマを選び活動します。

テーマ例：木工・園芸、劇団、農業・調理、アイヌ文化、自然と雪など。

### ■基礎学習

プロジェクトと結びつけて学習します。「かず」と「ことば」の時間があり、原則上のクラスと下のクラスに分かれて、教え合いの中で共同的・体感的に学ぶ学習です。

### ■自由選択

グループ活動を中心に、スポーツ、  
図工、音楽、英会話など、様々な  
メニューから1学期ごとに選びます。

……< 時間割(例) >……

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
1	登校	基礎/学科	プロジェクト	基礎/学科	基礎/学科
2	↓	↓	↓	↓	↓
3	プロジェクト	自由選択	プロジェクト	プロジェクト	自由選択
4	↓	↓	↓	↓	↓
5	プロジェクト	自由選択	プロジェクト	基礎/学科	プロジェクト
6	↓	↓	↓	ミーティング	↓
7					帰宅

注：基礎～国語・算数、自由選択～表現・もの作り・スポーツなど

### ■ミーティング

週1回の全校集会のほか、必要に応じて全寮ミーティング、グループごとの話し合いがあります。一人一人を大切に、みんなの納得を探って、とことん話し合うことが大切

です。議長は子どもが行い、多数決では子どもも大人も同じ一票です。

\*地域の大人も大事なスタッフです。

## 具体的な規模、構想

### □学校規模

一学年 20 名、120 名規模の小学校。将来的には中学校も開設。

校舎、体育館、グラウンド、寮（5、6 割の入寮規模）

通学生と寮生（道内遠方…週末帰省型、道外…月一帰省型など）を想定。

### □場所

札幌あるいは千歳（空港）か石狩近郊の自然の豊かな場所。

### □資金計画、試算

	初年度	2 年目	3 年目
児童数	1~4 年：80 名	1~5 年：100 名	1~6 年：120 名
（新入生）	（80）	（20）	（20）
授業料	5 万／月（予定）		
入学金	10~15 万（〃）		
施設教材	1 万／月（〃）		
教職員数	10~15 人	15 人	15 人
収支・経費など	別記「法人設立計画書」		

### これまでの歩み

1986 年 新しい教育・学校をめざす研究会結成

1991 年 北海道自由が丘学園をつくる会結成

1998 年 夕張にて自由が丘中学校プレスクール開校

2003 年 月寒にて北海道自由が丘学園スタート

2016 年 「自由な教育」を語る会、「自由な小学校」をつくる会（8 回／年、集会を重ねる）

2017 年 「きのくに子どもの村学園」学園長：堀真一郎講演会、研修会、出前説明会

2018 年

### これからの運動に、ご理解・協力・支援を

北海道の認可の「自由な小学校」づくりに関わってみたいという方は、ぜひ活動にご参加ください。



認定 NPO 法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会 気付

北海道に「自由な小学校」をつくる会（担当：細田孝哉）

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東 1 条 15 丁目 5-11

TEL (011) 858-1711 Fax (011) 858-1333

URL <http://www.hokjioka.net> <e-mail> [codmokan@agate.plala.or.jp](mailto:codmokan@agate.plala.or.jp)